

献 辞

経済学部経済学科教授の仙田左千夫先生が平成7年3月末日をもって退官されることになりました。

仙田左千夫先生は昭和4年8月愛知県にて出生、同24年3月彦根経済専門学校1年修了ののち、同年4月滋賀大学経済学部に入學、同28年3月経済学部経済学科を卒業されました。その後京都大学大学院経済学研究科に進學、昭和33年3月同研究科博士課程の単位を修得しておられます。昭和33年から2年間は中京大学商学部勤務されましたが、昭和36年4月に滋賀大学経済学部講師として母校に着任されました。以来今日まで34年間、学生時代を含めれば実に39年間にわたって本學に在籍され、教育・研究に従事されてきております。その間、昭和39年2月には経済学部助教授に昇任、昭和51年4月には経済学部教授に昇任されました。

仙田左千夫先生のご専門は財政学ですが、とくにイギリス公債制度に関する歴史的研究を中心テーマとされ、その成果は2冊の主著となって結実されております。すなわち、その第1は、昭和51年6月に刊行された『イギリス公債制度発達史論』（法律文化社）であり、その第2は、『十八世紀イギリスの公債発行—公債発行と金融社会—』（啓文社）であります。その中でも、第1の著書は、昭和47年から48年にかけての1年間文部省在外研究員として英国ヨーク大学に留學された時のご研究をもとに完成され、後に京都大学に提出して経済学博士の学位を授与されることになった記念碑的な業績ということが出来ます。

このように仙田左千夫先生は、財政学担当の教授として経済学科応用経済論分野の中心的存在として永年にわたり指導的な役割を担ってこられましたが、それと同時に行政職としても経済学部の発展に多大な貢献をされました。昭和57年4月から同60年3月まで滋賀大学経済経営研究所長、昭和60年4月から平成5年3月まで8年にわたって滋賀大学評議員、そして、昭和63年4月から平

成2年3月まで滋賀大学経済学部長として在職されました。

仙田左千夫先生が経済学部長として在職された時期は、本学にとって新学部
の設置を中心とした全学的な改組へのとりくみが大きな課題となっておりまし
た。折柄、新旧世代交替の時期にもあたり、百家争鳴ともいえるべき多様な意見
の輩出する中に、学部長としてのご努力は大変なものであったことが拝察され
ます。そのご経歴からも明らかなように、仙田左千夫先生の本学における活動
を振り返るならば、まさに滋賀大学経済学部の歴史とともに歩んでこられたと
いうことができます。学生として在籍された時期は、学制改革による新制大学
としての滋賀大学の発足をめぐる混乱の時代でありました。また、昭和40年代
における大学紛争の時代には、若手教官のリーダーとして身を挺して大学民主
化への道を探求されました。そして、現在に至る大学改革の大きな変動に対
しては、新学部設置と統合化に向けて懸命に指導力を発揮されました。いずれ
の段階にあっても、大学としての教育・研究体制のあり方について、その重く厳
しい課題を全身に受けとめてこられた仙田左千夫先生の姿勢は、私達後進の者
たちにとって何ものにも代えがたい貴重な教訓と励みとなってまいりました。
ここに改めて感謝の意を表したいと存じます。

このように仙田左千夫先生は、研究者として、行政職として、教育者として
本学に大きな足跡を残されました。そのご功績を記念して、滋賀大学経済学会
はここに退官記念論文集を謹呈したいと存じます。

ご退官後はくれぐれもご健康に留意され、本学のために今後も変わらぬご指
導を賜りますようお願い申し上げます。

平成7年1月

滋賀大学経済学会長 吉 田 修